

## 安江さんに聞いてみました！



八事の蝶々保存会会長  
**安江春彦さん**

昭和12年1月21日生まれ  
趣味…写真を撮る、ものづくり  
好きな食べ物…果物（特に柿が好き）

取材場所：五社宮

Q. どのような思いで八事の蝶々を作っていますか？

A. 蝶々を受け取る子供たちに、玩具を作る大変さが伝わるように真心を込めて作っています。

昔の人は、玩具をすべて手作りで作っていました。昔と同じ方法で作ることで、玩具が一つ出来上がるまでの苦労を知ってもらいたいです。

Q. 八事の蝶々は八事のシンボルですね。

A. 八事の伝統として後世に残していきたいです。

八事の蝶々は手作りの産業として明治時代から150年以上続いています。八事の重要な歴史として残すだけでなく、八事の蝶々を通じて八事の歴史に興味を持ってもらい、伝統の維持や伝達といった活動に参加をするきっかけとなつてほしいです。

Q. 八事の蝶々保存会の活動について教えてください。

A. 目標として、八事の蝶々に関するイベントを地域の方々向けに月一回程度行いたいと考えています。また、八事の蝶々は昭区和発祥ですが、現在は天白区のみが活動しています。より有意義な活動とするために、昭和白区にも協力していただけるとうれしいです。



写真：無印良品イオン八事店

昭和40年（1965年）代後半、この地域の住民であった加藤かなさんが、幼い頃に蝶々作りを手伝った記憶を頼りに再現し、普及と継承に努めました。

元小学校教員の安江春彦さんは、加藤さんの意志を受け継ぎ、2002年に有志で八事の蝶々保存会を立ち上げ、現在は代表として小学校の出張授業やイベント会場でのPRを続けながら後継者を探しています。

## 八事の蝶々

○八事の蝶々とは？

細く割った竹と和紙で蝶々を作り、色づけをして細い竹につけたもので、八事の郷土玩具（おもちゃ）です。和紙を羽の形にすべて切り取ってしまわずに、蝶の触覚を模した部分を前後に残しています。持って歩くたびに蝶が自重で揺れ、残した部分がひらひらと舞います。

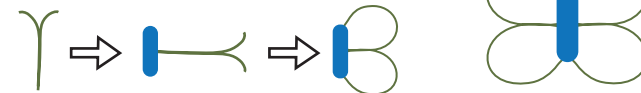
○八事の蝶々の歴史

明治維新後（明治元年は1868年）、家禄を失った士族（もともとの武士）が食ひ扶持を稼ぐために内職として作り、興正寺の門前で蕎麦まんじゅうとともに売り出したのが始まりです。八事遊園地のお土産として人気があり、帰りの八事電車や八事の駅までの道は色鮮やかな八事の蝶々を手にする人たちであふれかえっていたといわれています。

しかし、東山動物園の開園（1937年）に伴って客足が減少すると、八事の蝶々もいつしか作られなくなり、蝶々は一時町から姿を消しました。

### 八事の蝶々の作り方

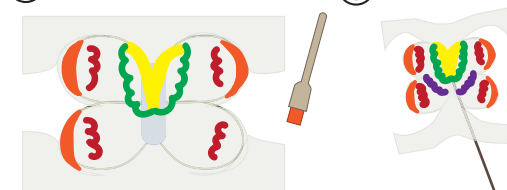
- 竹ひごを松葉のように下は繋がっている形にして、蝶々の胴体の部分になる発泡スチロールにさして丸く曲げて蝶々の羽根の半分を作る。
- 同じようにして、両方の羽根を作る。



- ②に和紙をはる。
- ④赤色にぬった所を切る。



- ⑤ 絵具で色を付ける。
- ⑥ 持ち手を付けて完成。



安江さんがYouTubeで八事の蝶々の作り方を教えてくれています。「八事の蝶々」で検索してみてください。

八事の蝶々の実物を見ることができる場所

- ・無印良品イオン八事店
- ・香り考房アイドーム
- ・山手フォート

### 八事の蝶々の案内板



中京大学前（地下鉄5番出入口）の地下鉄換気塔の植え込みの中に案内板があります。

## 八事に潜む隠れ蝶々を探せ！！

①中京大学生はよく見ている…？



②地下に入ると見つけるかも！



③知らず知らずのうちに踏んでいるかも足元をよく見て！



④通勤、通学時に毎日見ている？



⑤地下鉄の階段を上って地上に出たら周りを見渡してみよう

